

環境省の取組



事業目的・概要等

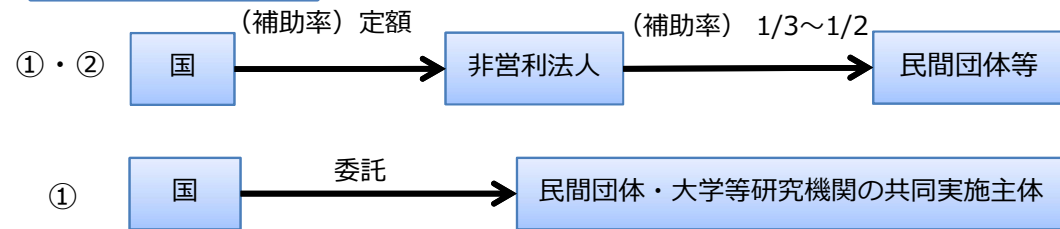
期待される効果

背景・目的

- **世界的課題**である海洋プラスチック問題、資源・廃棄物制約、地球温暖化対策等の観点から、**プラスチックの3Rや再生可能資源への転換が求められる。**
- さらに、中国や東南アジアによる禁輸措置が実施・拡大中であり、大量の廃プラスチックの国内滞留が深刻化し、焼却・埋立量や処理コストも増加。不法投棄・不適正処理も懸念され社会問題化。
- こうした構造的な課題を乗り越え、かつ、イノベーションやライフスタイル変革を通じて新たなグリーン成長を実現するためには、従来型のプラスチック利用を段階的に改め、石油資源由来の素材から紙、**バイオ・生分解性プラスチック等の再生可能資源への転換**を図っていくとともに、**使用済みの廃プラスチック等の省CO2リサイクルシステムを構築**することが不可欠。
- このため、新たに策定する「プラスチック資源循環戦略」に基づき①**代替素材である再生可能資源への転換・社会実装化**、②**使用済素材のリサイクルプロセス構築・省CO2化**を強力に後押しし、**低炭素社会構築に資する国内資源循環システム構築**を加速化する。

- プラスチック資源循環戦略に掲げるマイルストーンの達成
(ワンウェイプラスチック排出抑制、容器包装リサイクル、使用済プラスチック全体の資源有効利用、再生素材利用、バイオマスプラ導入)
- 資源循環関連産業の発展を通じた**経済成長・雇用創出**
(新たな成長の源泉)

事業スキーム



実施期間：平成31(2019)～35年度(2023年度)

事業概要

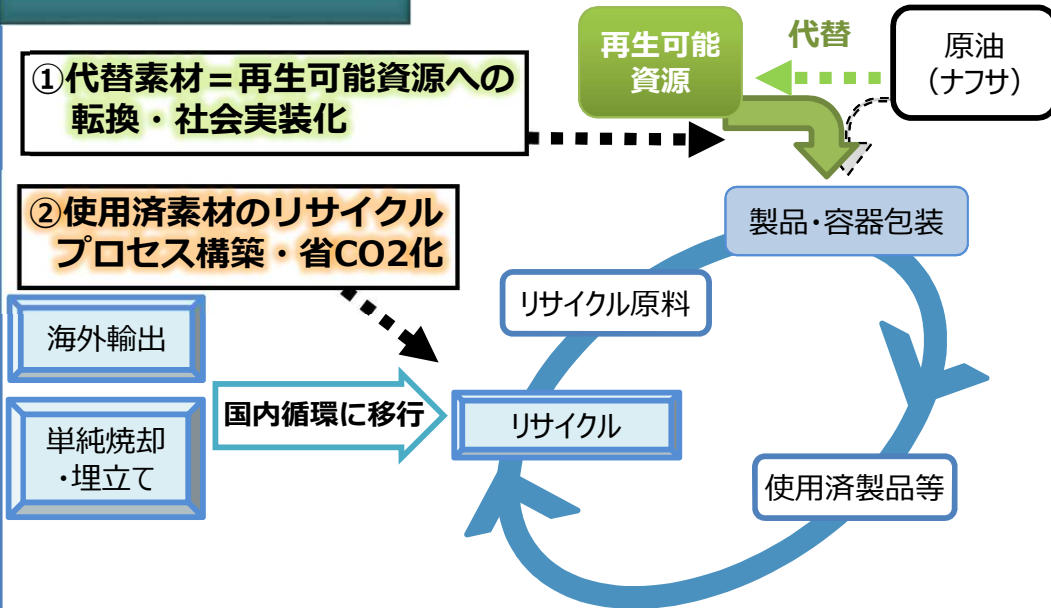
①代替素材である紙、バイオ・生分解性プラ（再生可能資源）への転換・社会実装化支援

紙、バイオ・生分解性プラスチック等のプラスチック代替素材の省CO2型生産インフラ整備・技術実証を強力に支援し、再生可能資源への転換・社会実装化を図る。

②プラスチック等のリサイクルプロセス構築・省CO2化支援

複合素材プラスチックなどのリサイクル困難素材のリサイクル技術・設備導入を強力に支援し、使用済素材リサイクルプロセス構築・省CO2化を推進。

イメージ





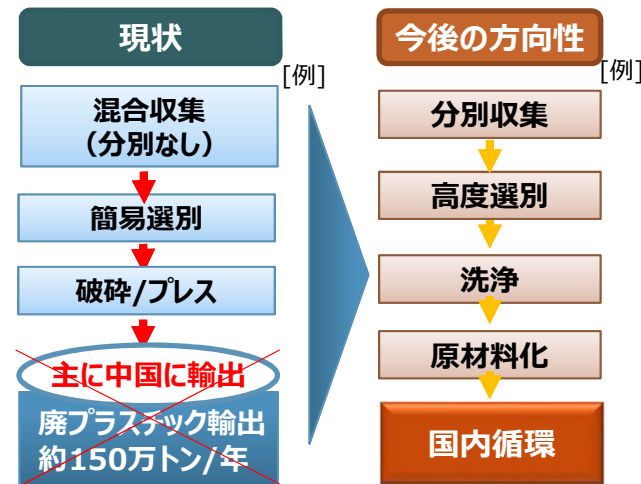
省CO₂型リサイクル等高度化設備導入促進事業

2019年度予算(案)
3,330百万円(1,500百万円)
平成30年度第2次補正予算(案)
6,000百万円

環境再生・資源循環局
総務課 リサイクル推進室

背景・目的

- これまで年間約150万トンの廃プラスチックが資源として海外に輸出され、その多くが中国に輸出されていた。一方、平成29年12月末に中国が非工業由来の廃プラスチックの禁輸措置を実施。さらに、本年12月末からは工業由来についても禁輸措置を拡大予定。加えて、中国に代わる輸出先となっていたタイ、ベトナムなども同様の禁輸措置を実施し、他の東南アジア諸国も導入の動きが見られる。この結果、国内での廃プラスチックの滞留が問題となっている。
- 昨年度、国内資源循環のための緊急的な支援制度を創設したが、アジア大の禁輸措置拡大に対応するためには、当該措置を大幅に拡充し、設備の高度化・効率化を通じてプラスチックの国内リサイクル体制を速やかに確保することが不可欠。
- 加えて、急速に導入が進んでいる再生可能エネルギー設備等の低炭素製品の排出に適切に対応するため、エネルギー消費の少ない省CO₂型のリユース・リサイクル設備や「省CO₂型リサイクル等設備技術実証事業」等により実証された技術・システムの導入を進める必要。
- 以上を通じて、低炭素化と資源循環の統合的実現を目指す。

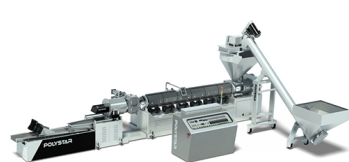


事業概要

- プラスチックの高度なリサイクルに資する省CO₂型（トップランナーと同水準）設備への補助（18.3億円）
- 低炭素製品等に係るリユース・リサイクルのための省CO₂型設備への補助（15億円）
(例)



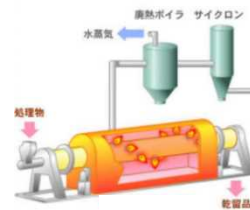
廃プラの破碎・洗淨・脱水設備



カッター一体型高速ペレット化設備

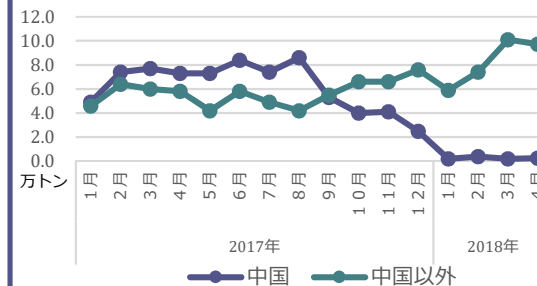


太陽光パネルリサイクル設備

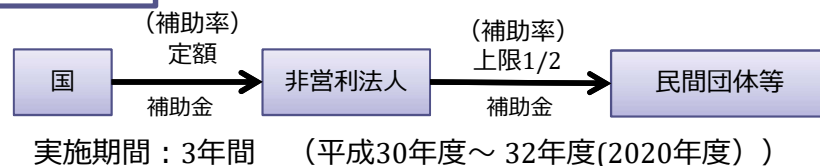


炭素繊維強化プラスチックリサイクル設備

プラスチックくずの輸出量の推移



事業スキーム



期待される効果

- ・ 設備導入によるリユース・リサイクル段階でのCO₂削減の推進（平成32年度86,000tCO₂/年の削減効果）
- ・ 環境技術・システムの高度化による循環産業の競争力強化

目的

5月30日（ごみゼロの日）から6月5日（環境の日）を経て6月8日（世界海洋デー）前後の期間を、海ごみゼロウィークとして海洋ごみ削減に向けた全国一斉清掃アクションを全国の個人・団体・企業・自治体へ呼び掛け、ごみ拾い活動を行い、そのアクションを可視化していく。それにより、プロジェクトをオールジャパンで連動し現象化していき、世界へ発信していく。

活動の柱

日本財団・環境省から、各団体・機関に応じて下記内容と呼び掛け、海ごみゼロウィークをオールジャパンで促進していく。

①ごみ拾い活動

- ごみ拾い活動の呼び掛けを行い、ウィーク期間中に広域で実施。
- ・政府官公庁
 - ・NPO・NGO、ボランティア団体
 - ・地方自治体、地域コミュニティ
 - ・海と日本連携パートナー、など

②ごみの調査・分析

- ごみ拾い活動で収集したごみの調査を行い、どこでどのようなごみがどのぐらいの量や種類があるかなどを分析して報告。
- ・地方自治体
 - ・各研究機関
 - ・NPO・NGO、関連企業等

③海洋ごみ普及啓発

- 海洋ごみに対する知識・意識向上を目的としたセミナーや学習プログラム、イベントなどを実施していく。
- ・教育機関
 - ・海洋関係団体
 - ・NPO・NGO

日本財団・環境省の取組

- ・各活動やイベントの情報を集約しweb上で掲出するなど、情報を発信。
- ・オリジナルごみ袋の提供
- ・後方支援活動(取材・撮影等サポート)

メッセージ

■趣旨

いま、海洋ごみによって、海の未来は危機に瀕している。海の危機は、人類の危機。そして、海洋ごみの大半は、町から来ている。私たちの身近な生活ごみは、川から海へと流れ、海を汚していく。だからこそ、海の豊かさを守り、これ以上、海にごみをださない、という強い意思で、日本全体が、世界中が連帯する必要がある。5月30日（ごみゼロの日）～6月8日（世界海洋デー）前後までを海ごみゼロウィークと定め、日本全体が連帯し、海洋ごみ削減のためのアクションを一斉に行う。ごみを出さない、ごみを捨てない、ごみを捨てる。この当たり前な行動は、日本の誇りであり、世界の模範となる。そして、一人ひとりの行動が、海の未来を守ることにつながる。いまこそ、行動を起こそう。日本から世界へ、海の未来を変える挑戦を実現していこう。

■共通アクション

アイテムを身に付けて、
海ごみゼロ袋でみんなで全国一斉清掃アクション！

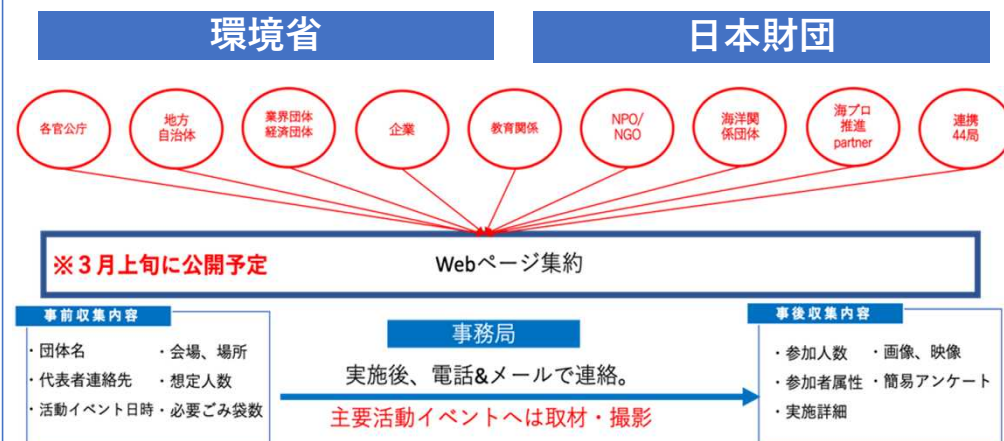
青いTシャツや青いタオル、青いアクセサリーなど、青色のアイテムを身に付けて活動に参加して、オリジナルごみ袋でごみ拾いを行う。

目標

3カ年で延べ、240万人のプロジェクト参加

■2019年海ごみゼロウィーク期間中
ウィーク全体で、2000箇所、80万人規模参加を目指す

情報集約



目的

- 海洋ごみ問題の解決には、我が国そして国際社会において対策を積極的に行うことが不可欠。
- 海洋ごみ対策に関して、全国から優れた取組を募集・選定し、2019年6月に開催予定の「海ごみゼロ国際シンポジウム」等で表彰し、深刻化する海洋ごみ問題の解決に向けた日本のモデルとなるような取組を世界に発信していく。

部門

以下の3部門を募集部門として設定し、企業・研究機関、NGO・NPO、地方自治体・個人の海洋ごみ対策の取組を募集。自薦他薦とも

アクション部門



海洋ごみ問題に対して、効果的な活動を継続的・発展的に展開し、かつその功績が顕著であると認められる実践的活動や普及啓発等の取組み

イノベーション部門



海洋ごみの円滑な処理及び発生抑制において、革新的かつその功績が顕著であると認められる技術開発等の取組み

アイデア部門



海洋ごみ問題をこれまでにない視点から解決しよう、既存の枠にとらわれない将来に向けた広がりが見込まれる萌芽的な取組みや着想

応募

応募期間：2月18日（月）18:30～4月10日（水）17:00

応募、審査、表彰のスケジュールは以下の通り

| | |
|-----------------|-------------------------------|
| 2月18日 ～4月10日 | 海ごみゼロアワードの募集 |
| 4月15日 ～4月26日 | 海ごみゼロアワード審査委員会による 審査・受賞者決定 |
| 5月7日週 | 受賞者への審査結果の通知 |
| 6月 中旬 | 「海ごみゼロ国際シンポジウム」での表彰 |

応募についての詳細は以下のURLを参照。

URL：http://uminohi.jp/umigomizero_award2019/

審査方針

選考の審査方針としては、下記4つを設定。

先進性・
先駆性

独自性

継続性・
波及性

有効性

※別途審査委員会と協議の上、審査基準を策定

表彰

各部門ごとの表彰と、最優秀賞・審査委員特別賞について表彰を行う。

| | |
|-------------------|-----------------|
| 最優秀賞 (1者) | 奨励金 100万円 |
| 環境大臣賞 (各部門1者・計3者) | 奨励金 各部門 金額 20万円 |
| 日本財団賞 (各部門1者・計3者) | 奨励金 各部門 金額 20万円 |
| 審査委員特別賞 (1者) | 奨励金 金額 20万円 |

○ 2019年6月に開催予定の「海ごみゼロ国際シンポジウム」での表彰。

○ 「プラスチック・スマート」、「海と日本プロジェクト」等のwebサイトでの発表。

目的

- ・ 2019年6月15日、16日に日本が議長国を務めるG20持続可能な成長のためのエネルギー転換と地球環境に関する関係閣僚会合が開催され、海洋プラスチックごみ問題が取り上げられる見込み。
- ・ このような機運を捉え、国内外の幅広い関係者に参画していただき、日本を中心に海洋プラスチックごみ対策における企業・団体の優れた取組や学術研究の成果などを、一般公開のもとで紹介し、問題の解決に向けた我が国の取組を国内外に発信する。

日時・場所

日時：6月中旬

会場：笹川平和財団国際会議場

住所：港区虎ノ門1-15-16



対象

- ・ 各国関係者
- ・ 企業・業界団体
- ・ NPO・NGO
- ・ 政府、地方自治体関係者
- ・ メディア
- ・ その他

※日英同時通訳を予定

構成

■シンポジウム構成（予定）

- ・ 海洋ごみによる汚染の現状報告
- ・ 海ごみゼロアワード表彰式
- ・ 日本の取組紹介
- ・ 世界の取組紹介

※シンポジウム後、関係者によるレセプションを実施予定

※プログラムの詳細は決まり次第公表



※イメージ